

所 報

1. 研究室活動報告

(1970年10月—1971年12月)

A. 教育哲学研究室

a. 教育哲学

日高第四郎教授（客員教授）

大学院において「教育基本法」の成立とその思想的背景、及び日本に於ける教育行政の問題点に関する講義を担当した。

小島軍造教授（大学院教授）

1970年4月以来、「大学院教授」として、大学院での講義・演習を担当してきた。年来、関心を持ち続けている民主主義の哲学を、プラグマティズムとの関連でとり扱った論文「民主主義を生かすもの——プラグマティズムと理想主義——」を執筆、本学報の第15号に発表した。また1971年の10月23日、24日の両日、大正大学において開催された日本デュイ学会第15回大会に於いて、一部会の司会を担当した。

金子武蔵教授（大学院教授）

大学院に於いて、近代思想の講義及び演習（ヘーゲル）を担当している。

讃岐和家教授

ヘーゲルに於ける教育哲学を主題として研究を進めてきたが、前年度に引き続いて学生部長の仕事を担当したこともあり、論文のかたちでその成果をまとめるまでに至っていない。1971年10月10日～11日京都大学楽友会館に於いて開催された教育哲学会第14回大会に於いて、一部会の司会を担当した。なお1968年以来従事してきた同学会機関誌『教育哲学研究』の編集委員の仕事をも、更に3年間続けることになった。

川瀬謙一郎助教授

マックス・ウェーバーの著作を手掛りとして、教育における理想的人間像と、その社会的基盤との関係を考察することをめざしている。

1971年10月9日及び10日、岡山大学に於いて開催された日本倫理学会第22回大会に出席。1971年2月13日、14日の第2回大学教員懇談会（主題、大学改革の現時点）、5月15、16、17日の第3回大学教員懇談会（主題、大学間交流）、9月、25、26日の第4回（主題、入試改革の現状、大学改革の現状、於八王子セミナー・ハウス）に参加し、世話人となり、一部司会をつとめた。

1971年1月、「ペシミズムとオブテイミズム」を脱稿した。これは理想社『実存主義講座』第4巻「気分」（未刊）に収められる。

磯田一雄助教授

1971年度の文部省科学研究費による共同研究「教授理論の系譜に関する研究」で、ルソー、フレーベル等を中心とする「活動主義」の教授理論を分担している。この研究は来年度も継続される予定である。また日本の「民間教育史料研究」において、大正新教育を中心として、上の教授理論史研究との関連を探究している。

日本教育学会30回大会（1971年9月2日～4日、於仙台）、日本教育方法学会7回大会（同8月31日～9月1日、於仙台）、及び日本教育史学会15回大会（同10月8日～9日、於広島）に参加した。

著作としては、1971年5月、東大出版会より公刊された『戦後日本の教育改革、教育課程、総論編』のなかで、第一部第二章ほか四章を執筆した。また細谷俊夫他編『教育経営事典』（帝国地方行政学会）に2項目を、学習研究社『グランド現代百科事典』に5項目を、それぞれ寄稿した。

b. 基督教教育哲学**中川秀恭教授**

1972年春より、大学院に於いて、キリスト教人間学を始めとする講義を担当する。

c. 教育思想史**長清子教授**

1971～72年度はWCC（世界教会協議会）の会長の一人として、常任委員会出席のため、スイス、アメリカ、ブルガリア、ニュージーランド、オーストラリアなどを訪ね、夫々の国のキリスト者、および大学人たちと協議し、また大学を訪問して意見交換の時をもった。ニューヨークにおいては、ICU後援会において教育関係の学者たちと、今日の大学教育について懇談会を持った。1971年11月～12月には、日本学術振興会よりの助成金による日韓比較研究「アジアの近代化と人民」の推進、協力体制の確立のため韓国のソウル市の延世大学を訪問し、学長朴大全博士、都市問題研究所長蘆貞鉉博士をはじめ、同大学の教授達と懇談の時をもち、今後の協力体制、研究プランなどについてうちあわせ、また高麗大学アジア問題研究所を訪れ、金研究所長をはじめ研究所員の学者たちと懇談した。

d. 比較教育学**ベン・C・デューク助教授**

現代日本の教育の直面する問題を、教科書検定訴訟に焦点を合わせて考察した。その成果は、本号に掲載された「Textbook Controversy in Japan」である。また3年前、ロンドン大学に提出した博士論文を、ハワイ大学から公刊すべく、準備中である。

B. 教育心理学研究室

梅津八三教授

I 研究活動

「重度障害者の教育心理学的研究」（文部省科学試験研究費補助）の研究分担者として盲ろう者および盲精薄者の言語行動の学習の問題をあつかう。また、全体の主任者として研究の総合にあたる。

II 著作

盲ろう児の言語行動の形成「言語の科学」No.2, p. 90—123, 1970. 東京言語研究所
都留春夫教授

I 研究活動

立教大学早坂泰次郎教授，東洋大学坂口順治助教授らと共に I P R（対人関係）研究会を組織し，センシティブティ・トレーニングの活動を通して人間論，人間関係に関する研究をつづける。日本カウンセリングセンター，日本カウンセリング協会の活動を通して個人およびグループのカウンセリングの研究をすすめる。

II 学会発表等

1971年12月日本学生相談研究会のシンポジウムに参加した。

III 著作

1. 著書「いのちといのちをつなぐ人間関係」1971年
2. 「<わかる>と<かわる>」カウンセリング第2巻第4号1971年
3. 資料「東南アジアの諸大学と研究者および学生を交換するプログラムの可能性について」国際基督教大学学報1 A, 教育研究15, 1971年.

星野 命助教授

I 研究活動

前年に引き続き，日本学術振興会の研究費による「社会言語学研究」班の一員として，待遇表現の一つである悪態（軽卑語，罵語）について，その社会的機能と表出の条件を心理学・文化比較の立場で追求した^o。その結果は日本民族学研究大会（1970・5・24於東京日本青年館）で口頭発表したほか，季刊人類学第2巻3号に報告，また米国および日本でベストセラーとなり，その映画も人気を呼んだ「ラブ・ストーリー」について原本および映画脚本が共同分析の対象としてとり上げられたので，10月23日都市センターにおけるシンポジウムで分析結果を報告した。

II 学会発表等

上記日本民族学研究大会における発表のほか，1971・11月9・11両日神戸大学で行われた日本教育心理学会第13回総会において長谷川浩一氏と連名で「児童・生徒の社会的規範，権威的人物に対する態度第2報」を発表した。これは1965年より継続的に進められてきた六ヶ国共同研究結果の一部の分析である。また1971年11月20・21両日大手門大学で開かれた第38回応用心理学会・第88回関西心理学会ではシンポジウム「地

域社会心理学」の指定討論者として発言した。なお、発表はしなかったが出席し研究討論に加わったものとして、第35回日本心理学会大会（1971・9・23—25於国立教育会館）、日本社会心理学会シンポジウム（1971・6・30於新潟大）、同大会（11・13—14、於東工大）がある。さらに、1971年7月下旬に湯河原で行われた基督教教育同盟関東地区カウンセリングワークショップには世話人の一人として参加した。八王子のセミナーハウス主催の心理学セミナー（1971・1・30～31、12・18～19）では二度ともオーガナイザーとなり、一度はセクションアドバイザーとして参加した。

Ⅲ 著 作

「あくたい・もくたい考」季刊人類学2巻3号，社会思想社，P29—55，1971年7月刊行「性役割の発達と家庭教育」，家政教育，1971・7月号。

その他学研「グランド百科」中・小項目を分担執筆，「性格はかえられるか」（詫摩武俊氏と共同編著）執筆（1972年2月有斐閣刊行予定），オルポート「人格と社会との出会い」を原一雄助教授と共同翻訳した。（1972年2月誠信書房刊行予定）

古畑和孝助教授

I 研究活動

- 1) かねてよりの研究課題たる「協同一競争」の中，特に対人態度との関連につき均衡理論の枠組に基づき検討している。
- 2) 文部省科学研究費による試験研究「道徳性発達の心理学的基礎」（代表研究者・立教大学沢田慶輔教授）に分担研究者の一員として参加，「道徳性と準拠集団」に関する基礎的研究をしている。深見敦子助手が共同研究者になっている。
- 3) 「均衡理論」に関する基礎的研究を続け，また7～8名の本学に関係のある若手研究者・学生とともに定期的にそれに関する読書会をもっている。
- 4) かねてより教育場面における集団過程のある側面について研究している。

II 学会発表等

- 1) 前年に引き続き，「協同一競争と対人態度（第2報告）」を，1971年9月，日本心理学会第35回大会（早稲田大学：於・国立教育会館）で発表（同論文集457—458頁所載）。なお，この発表は，主催校により，「対人関係分析」に関するコロキウムのひとつとして生まれ，その司会者をつとめた。
- 2) 1971年10月，日本教育心理学会第13回総会（於・神戸大学教育学部）で，深見助手らと共同で，「道徳性と準拠集団の発達（第1報告）」を発表（同論文集416—421頁所載）。
- 3) また，同上学会で，「教育心理学の理論と方法」に関するシンポジウムのひとつ「児童・生徒理解の実践的方法」（司会・名古屋大学 続有恒教授）に提案者の一人として参加。（その要旨は「教育心理学年報（第11集）」に収録予定。）

Ⅲ 著 作

- 1) 発達課題，自我同一性。 東・大山・詫摩・藤永・（編）「心理学の基礎知識」

有斐閣, 1970.

- 2) リーダーシップ。水原泰介(編)「社会心理学」(八木晃(監)講座心理学・第13巻)東京大学出版会, 1971, 153—196頁。
- 3) 母親から子どもへのフィードバックの子どもの行動の変化に及ぼす効果「教育心理学研究」, 1971, 19, (3), 152—162。
- 4) 均衡理論の適用による母—子の態度に関する研究(第2報告)。「教育研究」, 1971, 15, 87—109。(鈴木百合子と共著)
- 5) その他印刷中・進行中数編。

原 一雄助教授

I 研究活動

生理心理学研究を再開。Dick-Hunter Memorial Fund の寄贈を受け, 動物飼育設備を拡張。研究課題:(1)分割脳猫による視覚弁別反復逆転学習の半球間転移。(2)廿日ネズミの生育条件と情動反応。

1971年4月より千葉大学人文学部で非常勤講師として生理心理学を担当。小平市国立武蔵療養所行動生理研究室における共同研究を継続。11月愛知県犬山市京都大学霊長類研究所において屋久島ザルに分割脳手術を施行。

II 学会発表等

- 1) 1971年4月 日本動物心理学会第31回大会(於 明星大学)において「フロネズミの情動表出と前脳損傷の影響」を口答発表。
- 2) 1971年9月 日本心理学会第35回大会(於 国立教育会館)において「サルの視覚弁別学習脳半球間転移における刺激要因の分析」を口答発表(同論文集7~8頁所載)。生理心理部門シンポジウムの司会。
- 3) 1971年10月 日本教育心理学会第13回総会(於 神戸大学)において「前脳交連線維切離ザルによる視覚弁別反復逆転学習の半球間転移」を口答発表(同論文集350~1頁所載)。この部会の座長。
- 4) 1971年11月 弁別学習研究会(於 京大霊長類研究所)において「分割脳研究の動向」を講演。

III 著作

- 1) (訳書:星野 命共訳) G. W. オルポート「人格と社会との出会い」誠信書房 1972年2月
- 2) 「大学教育の総合評価 その3 卒業生による学生生活の評価」(土屋静子共著) 教育研究 15号, 49~85

深見敦子助手

I 学会発表等

1971年10月, 日本教育心理学会第13回総会(神戸大学)において, 古畑和孝助教授および発智弘雄氏(埼玉県入間市教育委員会)と連名で, 「準拠集団と道德性の発達

(第一報告)」を口頭発表(同論文集416~421頁)。

II 著 作

「交友関係調査に示される選択理由排斥理由の分析」ICU教育研究15号, 111~124

C. 視聴覚教育研究室

布留武郎教授

I 研究活動

文部省学術図書出版助成金をうけて、*The Function of Television for Children and Adolescents* と題する書物を上智大学日本文化叢書より出版した。これは1967年—69年にわたる都下三多摩地区の小学4年生, 中学1年生, 高校1年生3000名を相手とする調査報告書で、視聴覚教育研究室スタッフを中心とする各員の協力によって生まれたものである。

5月21日から30日まで、西ドイツに出張、ミュンヘン市郊外で開催されたプリ・ジュネースのシンポジウムに参加した。プリ・ジュネースは青少年のための教育テレビ番組祭の名称で、バイエルン放送協会主催のもとに1962年以来隔年に開催されている。シンポジウムは今後の番組祭のありかたについて根本的な検討を加えるために、ヨーロッパ、アメリカ、アジア各州にまたがるプリ・ジュネース諮問委員を召集して行なわれたものである。

II 著 作

- 1) *The Function of Television for Children and Adolescents*. Monuments Nipponica, Tokyo 1971, PP. 323.
- 2) テレビジョンと児童—効果に関する考察(その1), NHK文研月報, 昭和46年8月号1—13頁。
- 3) テレビジョンと児童—効果に関する考察(その2), NHK文研月報, 昭和46年9月号1—14頁。
- 4) プリ・ジュース談話会, 放送教育, 昭和46年9月号, 54—56頁, など。

中野照海助教授

I 研究活動

外務省文化事業部の依頼を受け、東南アジア文部大臣機構の教育改革の連続講義を1971年8月30日より9月6日迄、シンガポール共和国教育工学センターで行った。

II 学会発表等

- 1) 日本放送教育学会等16回大会(於山梨大学, 1971年10月14・15日)の部会研究「学校放送番組の現実をめぐって」に提案者として参加。
- 2) 第22回放送教育研究会全国大会(於金沢市, 1971年10月22・23日)のパネルディスカッション「中学校教育の特質と放送教育」に助言者として参加。

III 著 作

- 1) 「新教育用語辞典」編集委員，教育出版社，1971年1月。
- 2) 「現代社会における教育工学」「教育工学講座」第1巻，坂本昂編，
第2章「教育の理念と教育工学」1971年1月。
- 3) 「学習活動の自動化」「学習活動の自動化講座」第4巻，明治図書，1971年3月。

阿久津喜弘助教授

I 研究活動

「組織内コミュニケーションの研究」という課題について，一連の調査を実施中。
これまでに研究報告書にまとめられたものは次の2つである。

- (1) 「企業組織における情報と影響の流れについて」
- (2) 「認知的組織構造の測定」

II 学会発表等

- 1) 「児童のオピニオン・リーダーシップ研究，I—行動領域別によるオピニオン・
リーダーシップの比較」(共同研究)，日本教育社会学会第22回大会，1970年10月。
- 2) 「組織内コミュニケーションの研究I・II」(共同研究)，日本社会心理学第11
回大会，1970年10月。
- 3) 「予期せぬ事件のニュース・ソース」(共同研究)，日本新聞学会1970年度秋季
研究発表会，1970年11月。
- 4) 「児童のオピニオン・リーダーシップ研究II—方法論的検討を中心にして」(共
同研究)，日本教育社会学会第23回大会，1971年10月。
- 5) その他の学会活動：日本教育社会学会編集委員，日本新聞学会研究委員。

III 著作

- 1) 「マス・コミュニケーション論」，学文社，1970年11月(共著)。
- 2) “情報化状況における選択行動の心理”，布留・三崎編「情報化社会とマス・コ
ミュニケーション」，協同出版，1970年11月，208—220頁。
- 3) “児童のテレビ行動におけるオピニオン・リーダーシップ”，「教育社会学研究
25」，1970年10月，73—88頁(生田孝至と共同執筆)。
- 4) “Opinion Leadership in Children’s Television Behavior,” T. Furu, *The
Function of Television for Children and Adolescents*, monumenta Nipponica,
1971, pp. 270—281.
- 5) “National Identity as a Salient Component of Self-conception in Cross-
national Contact,” 「ICU教育研究15」1971年10月，125—141頁。

生田孝至助手

I 研究活動

1) 人間行動を対人間の相互作用の側面からアプローチすることを試みている。具
体的にはインフォーマルなグループにおけるオピニオン・リーダーの機能に関して基
礎的な研究を行なっている。

2) 日本教育社会学会研究部員として、学会研究活動に参加している。

II 学会発表等

- 1) 「児童のオピニオン・リーダーシップ研究Ⅰ—行動領域別によるオピニオン・リーダーシップの比較—」, 日本教育社会学会22回大会 (阿久津助教授他と共同研究)
- 2) 「組織内コミュニケーションの研究(Ⅰ)・(Ⅱ)—企業組織における情報と影響の流れについて—」, 日本社会心理学会第11回大会 (阿久津助教授他と共同研究)
- 3) 「予期せぬ事件のニュース・ソース」, 日本新聞学会1970年度秋季研究会(阿久津助教授他と共同研究)
- 4) 「児童のオピニオン・リーダーシップ研究Ⅱ—方法論的検討を中心として—」, 日本教育社会学会第23回大会 (阿久津助教授他と共同研究)

III 著作

- 1) 「テレビジョンと学業成績」『マスコミ時代の教育—教育社会学研究—第25集』東京：日本教育社会学会編，昭和45年，58—72頁 (布留教授と共同執筆)
- 2) 「児童のテレビ行動におけるオピニオン・リーダーシップ」, 『マスコミ時代の教育—教育社会学研究—第25集』東京：日本教育社会学会編，昭和45年，73—88頁。(阿久津助教授と共同執筆)

D. 理科教育法研究室

原島鮮教授

I 研究活動

昭和47年度文部省科学研究費補助金特定研究(1) 課題番号91165 課題名「コンピューターを利用した教育(CAI, CMI), 特にその基礎研究およびソフトウェアの開発」(補助金額¥40,000,000)を受け代表者として全国の研究分担者とともに理科教育研究に従事した。

その一環としてICUコンピューターセンターに陰極線管によるディスプレイ装置(テープレコーダー、スライドと連動)を購入し(約¥8,000,000)従来の研究を継続する一方ソクラテス型対話による物理教育の研究を始めた。

II 著作

“Use of Computer-Generated Animation Films In The Teaching of Physics”
ICU教育研究15, P P143—148, 1971.

三宅彰教授

I 研究活動

- 1) 高分子ガラス転移に関する自由体積理論と分子形態エントロピー理論との比較検討, (1970年12月 理研高分子物理シンポジウム)
- 2) 高分子の緩和現象と分子運動との関連の分析

II 著作

三宅彰・田所佑士訳：ルイス・ランドル「熱力学」岩波書店(1971年10月)

勝見允行教授

I 研究活動

Workshop on General Education in Science for Non-Science Students at Tunghai University, Taichung, Taiwan, China, December 27—31, 1971 に出席し,

“Philosophy and Content of Science Portion of ICU’s General Education Program” について報告した。

ローランド・リッチ教授

I 研究活動

“a new scheme of qualitative analysis as a way of teaching fundamental reaction types plus periodicity” について継続研究中。

2. 大学院教育学研究科修士論文

(1971年卒業者)

1971年3月卒業者 12名

A. 教育哲学 (2)

加藤 駿 明治期における科学と人間——進化論の受容をめぐって——
滝本 豪徳 ソクラテスの方法の一考察

B. 英語教育法 (5)

阿部万里子 A Study of Manner and Sentence Adverbs
有元 将剛 Modals in The Infinitive in English
平井 道郎 Causative Verbs in Caxton
草山 友一 Some Stylistic Features of NEB, Compared with AV
大石 五雄 The Use of The Progressive Form in Salinger

1971年6月卒業者 5名

A. 英語教育法 (4)

土居 桂子 An Approach to Imperative Constructions in English
今村 成男 A Study of “Comprehension”, from Allo io Eme
佐藤千鶴子 Computer-Assisted Experiment of Pronunciation Test-
Tea ching
津田 早苗 On English ‘s-ing Complementation

B. 理科教育法 (1)

中治 紘一 集団遺伝学の高校生物への導入に関する一考察

3. 教育実習報告

(1971年度分)

1971年度教育実習は、大学院学生2名も含め50名(都の受入れ許可は40名)の学生が参加した。5・6月には、三鷹市立第一、第二、第三、第四、第五中学、品川区立伊藤中学および私立女子学院の協力を得て、また9月から11月にかけては、都立三鷹高校、市立小金井東中、私立日本三育学院、大田区立雪ヶ谷中学、目黒区立東山中学、教育大附属高校の協力を得て、行なわれた。詳細は以下の通りである。

1. 実習生総数 50 (男子11, 女子39)

2. 実習日程

5月24日～6月5日 (三鷹一中, 三中, 四中, 五中)

5月27日～6月9日 (女子学院)

5月31日～6月12日 (三鷹二中)

6月7日～19日 (伊藤中)

9月6日～18日 (三鷹高校, 日本三育学院)

9月6日～25日 (教育大附属高校)

9月20日～10月2日 (小金井東中)

10月4日～16日 (雪ヶ谷中)

10月27日～11月11日 (東山中学)

3. 実習配当表

教科	実習板	三鷹高校	三鷹一中	三鷹二中	三鷹三中	三鷹四中	三鷹五中	小金井東中	日本三育学院	伊藤中	女子学院	教育大附属高	雪ヶ谷中	東山中	合計
		英	7	5		4	4	2	2	5	1		1	1	1
社	語		3	4			2							9	
理	会		1	1			1	2						5	
数	科							2						2	
宗	学										1			1	
	教														
計		7	9	5	4	4	3	8	5	1	1	1	1	50	

1972年3月卒業生151名中、教育職員免許状を取得した者は26名(社2, 社英4, 理1, 数2, 英17)であった。教育実習を行なったもの50名のうち、72年3月には約半数の26名しか免許状を取得しなかったわけであるが、これは、卒業延期をした者が多数いたということが一因になっている。

また同時期卒業生の教員就職状況は以下の通りである。

私立高校	女子1名(英)
私立中・高校	女子2名(英1, 数1)
公立中学	女子2名(社1, 英1)
合計	5名

4. ひ と の う ご き

■新任・就任・辞任

- 金子 武蔵客員教授(教育哲学)：71年4月より大学院教授に就任。
 秋田 稔教授(基督教育哲学)：71年3月退任。
 安原 実助手(非常勤)(教育哲学)：71年4月より着任。
 森田美千代助手(非常勤)(教育哲学)：71年3月退任。
 ヘルムットP. モースバッハ助教授(教育心理)：70年10月退任。
 苫米地憲昭助手(非常勤)(教育心理)：71年3月退任。
 深谷 澄男助手(非常勤)(教育心理)：71年4月より着任。
 阿久津喜弘講師(コミュニケーション学)：71年4月より助教授に就任。
 坂本 久男助手(非常勤)(視聴覚教育)：71年3月退任。
 新城 岩夫助手(非常勤)(視聴覚教育)：71年4月より着任。
 中島 文雄客員教授(英語学)：71年9月より客員教授として着任。
 篠遠 喜人客員教授(生物学)：71年9月より学長に就任。
 三宅 彰教授(物理学)：71年9月より学長事務取扱より学務副学長に就任。
 勝見 允行準教授(生物学)：71年4月より教授に就任。

■海外出張・帰任・休職

- 都留 春夫教授(カウンセリング)：71年7月より12月迄, フィリッピン, ケソン市, アテネオ・デ・マニラ大学, 日本研究講座主任として出張。
 大内 謙一教授(化学)：70年12月より休暇のところ, 71年6月帰任。
 R. リッチ教授(化学)：ベッセル大学へ2年間出張のところ, 71年4月帰任。
 S. ホスレット教授(生物学)：御病気で休暇中のところ, 71年5月12日北米アイオワ州デコラの自宅に於いて逝去。享年63才。